

## 春陸・保楼投を継ぐ者

### ★インターハイで7回入賞

春高は投擲種目を元来得意とする。

ハンマーの歴史もまた輝かしいものであるといえる。1950年の加藤功先輩の入賞に始まった春高ハンマー投げの大活躍。

田中誠四郎先輩の優勝（1960年）を筆頭に合計7回のインターハイ入賞を誇る。

今年、6kg時代の代表として、天野尚樹選手が名乗りをあげた。

このサークルで、いったいどれほどのOBたちが汗を流してきたことだろうか。初心者は、ターンに失敗し金網に投げ損じた事だろう。しかし、それはこの円の中で研ぎ澄まされた高度な技術へとやがて変わる。サークルは物を言わぬコンクリートだが、太陽に熱く焼けたその面に触れると、その当時の叫び声が聞こえてきそう。何十年も投擲OBを支えてくれたこの聖域。それぞれの代の、数えきれない春陸保楼投のロマンにあふれている。



### ★県新人で優勝

県大会入賞歴を持つ春陸・天野 大樹選手（2011）の弟である尚樹選手は県新人でハンマー優勝を飾った。5月の県大会は3位通過。県大会でハンマー優勝というのは、春～新人戦を通していつ以来であろうか・・・

インターハイ入賞を果たした清水慶久（1993）でさえ屈強なる東部地区メンバーに阻まれ、県での優勝はない。

葛西陽介（1993年新人）、南川一夫（1997年新人）の二人あたりという事になる。この二人はインターハイまで進出しているので、関東で天野尚樹選手が6位入賞すると、南川から16年ぶり、葛西から20年ぶりの快挙ということになる。

歴代春陸ハンマーOB達の悲願だ。

37回 野本